
シアワセのトキ

Shin=Shin

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

シアワセのトキ

【Nコード】

N8780U

【作者名】

Shin=Shin

【あらすじ】

幸せって、一体何だろう？

僕は、階段を駆け上った。壁の塗料があちこち剥がれかけ、コンクリートがむき出しになって薄暗い陰湿な空間。でも、その階段を最後まで登りきったところに僕の楽しみはいつも待っている。

校舎の屋上、鉄柵の張り巡らされた薄汚い地面とは似つかない広大なパノラマ。それはいつも僕の心を躍らせる。

見上げればそこは夢の世界、瞳の色まで変えてしまいそうなほどの青だ。そして、その青のパレットにふわりと絵の具をのせたような白と、光のグラデーション。

「君は、いつもここにいるね」

ふと、透き通るようなテノールの声が耳に届く。振り向けば良く知る旧友の顔がそこにあった。

「ここが、好きだからかな」

僕は、鉄柵から身を乗り出して上を見上げた。のんびりといくつもの白が流れていく。

「好き、か。楽しいってことかい？」

「楽しい、そうかもしれない。いつも同じ景色で違う形をしているからね」

友人は僕の隣で鉄柵に前のめりによりかかり、右手を空へ届かんばかりと伸ばす。

「いつもそこにあるのに届かない、判っていることなのに無性にやりたくなる」

友人は呟いた。

「見ているだけでいい。簡単に届くものなら、夢のカケラも無いよ」僕は友人に言った。

「そう、俺には判らないな。届かないものを追い求めるといふ事だね」

「僕はこれでいい、一番好きな時間で、楽しい時間だから」

優しい風が屋上をなぞ、下に見える桜の木々が一斉に声を上げた。それと同時に校舎中に鐘の音が鳴り響く。時間を告げる合図だ。

「さて、行こう——」

友人が僕に告げ、そして続けた、

「——楽しい時間は、始まるけどいつかは終わる」

「そうだね」

僕はひとこと、答えた。

「君は空を見ていて“楽しい”と言った。それって“幸せ”ってことなのかな、だとしたら俺は、君が羨ましい」

友人は、僕の方角を見て言った。

「どうして？」

僕は友人に尋ねた。

「君は、俺の知らない“幸せ”を知っているからかな」

「これを“幸せ”と感じるのは僕だからさ。人はそれぞれ“幸せ”を違う形で持っているものだよ、きっと。君にもあるんだろう？
楽しいこと」

僕が訊くと、友人は空に顔を向けて言った。

「楽しいことね……考えておくよ」

僕等は薄暗い階段を下りてゆく。急に暗い室内に入ったので、眼にはずっとカメラのフラッシュを浴びたかのような残像感が脳裏に焼き付いている。

僕は、階段を少し降ると一瞬だけ後ろを振り向いた。あの景色が名残惜しい。僕がきつと、唯一“幸せ”だと思えるひとときだったからなのかもしれない。いつも同じ景色が僕を待っている。同じでありながら表情を変える青と白のパノラマは、屋上へ上がる扉というフレームに小さく納められ、絵のように色彩豊かだった。

小さくてもいい、短くてもいい、それが“幸せ”であると僕が思えるなら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8780u/>

シアワセのトキ

2011年10月9日11時32分発行